

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校 樽井 圭子

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	64人	算数	64人	理科	65人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	83人	算数	83人	理科	83人
------	----	-----	----	-----	----	-----

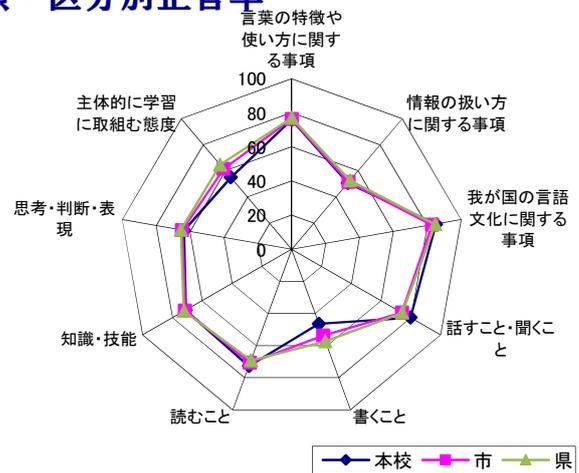
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.9	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	50.8	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	85.2	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	79.8	74.1	74.2
	書くこと	46.4	53.7	57.2
	読むこと	72.7	70.7	69.2
観点	知識・技能	71.2	71.6	72.3
	思考・判断・表現	63.6	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	55.1	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

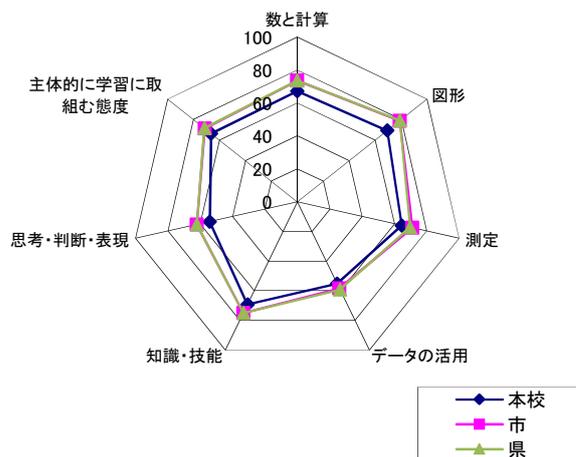
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は75.9%で市を0.5%下回った。 ○漢字の読み書き、ローマ字、主語、述語、国語辞典の使い方など、市の平均とほぼ同じである。引き続き、年間を通じて、丁寧に扱っていきたい。 ●ローマ字の読みで誤答選んだ児童が20%いた。	・普段の漢字の小テスト等の点数が関連しているため、苦手としている児童への普段の漢字の習得をもっと丁寧に扱う。 ・ローマ字の習得は、パソコン入力を多く設定するなど、ローマ字を日常的に使う機会を増やすようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は50.8%で市を0.7%下回った。 ○情報と情報との関係について理解することに関しては、市の平均とほぼ同じである。 ●調べたことを文章にまとめる問題の目的を意識し、集めた材料を比較したり、分類したりして伝えたいことを明確にする問題に対して誤答が50%あり、課題が見られた。	・資料をもとに、まとめる作業を多く取り入れたり、説明文の問題の中で、資料同士の関係を見つけるなど、資料や情報を適切に処理できるように授業の中で、意識して取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は85.2%で市を2.4%上回った。 ○我が国の言語文化に関する事項に関しては、市より高い傾向が見られ、概ねできている。 ●漢字のへんやつくりに関して、漢字の習得を苦手としている児童に課題が見られた。	・新出漢字のときに、漢字のへんやつくりを授業の中でしっかり扱い、習得させるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は79.8%で市を5.7%上回り高い傾向にある。 ○話し合いの内容を聞き取ることに限っては、概ねできている。 ●話し手が伝えたいことの内容を捉えることに関しては、課題が見られた。	・新型コロナウイルス感染症対策のためペアやグループが組みにくいので、授業の中で、みんなの前で話す、話の内容に賛成、反対などの意識をもって聞き取る、意見に対して反論をするなどの機会を積極的に取り入れ、誰もが話せるように意図的に授業に取り入れる。
書くこと	平均正答率は46.4%で市を7.3%下回った。 ●問題が解き終わらずに、無回答になってしまった児童も33%も見られ、また、条件どおりに書けなかった児童も33%おり、課題が見られた。	・自分の考えを書く活動を意図的に取り入れ、書くときの条件や字数制限を指定して目的をもって書けるようにする。
読むこと	平均正答率は72.7%で市を2%上回った。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有することに関しては、概ねできている。 ●説明文の読み取りで、叙述を基に文章や段落の内容を捉える問題に課題が見られた。	・中心となる語や文を見つけて要約する作業を意図的に取り入れる。 ・説明文の内容を読み取る際には、叙述を基に内容を正しく理解させながら読み取る習慣をつける。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.2	73.5	73.6
	図形	69.4	79.0	79.1
	測定	64.6	71.1	69.8
	データの活用	55.2	58.4	59.2
観点	知識・技能	69.2	75.0	75.0
	思考・判断・表現	54.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	66.5	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

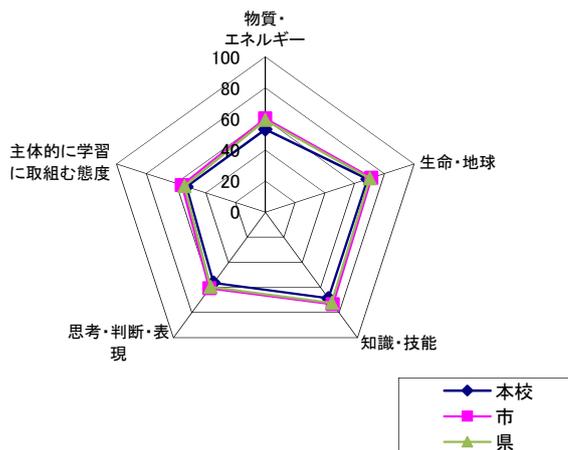
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、67.2%で市より0.3%下回った。</p> <p>○小数の仕組みやわり算のあまりなしの計算、真分数+真分数の計算に関しては、概ねできている。</p> <p>●3桁+4桁(繰り上がり3回)、波及的に繰り下がりのある計算、2桁×2桁、2桁÷1桁などに課題がある。</p>	<p>・4年生以降で学習するわり算の筆算の学習で、除数・被除数・商・余りの関係を繰り返し確認し、文章題においても、どれが答え、余りなのか確かめながら学習させるようにする。</p> <p>・スキルタイムや家庭学習での四則のドリル学習に繰り返し取り組むようにさせ、計算技能の習熟に努めるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、69.4%で市より9.6%下回った。</p> <p>○三角形の作図については、正答率が80%を超えており、よくできている。</p> <p>●円や球の半径や球が入った箱の辺の長さを求める応用問題などに課題がある。</p>	<p>・具体物の操作を取り入れて、実際に測る活動や場面を視覚的に捉えさせることで、問題場面の把握ができるようにする。</p> <p>・ボールなどの具体物や模型などを使って、円や球における直径や半径などの言葉の意味や関係の理解を促す。</p>
測定	<p>平均正答率は、64.6%で市より6.5%下回った。</p> <p>○道のりの意味、はかりの読み取りは、概ねできている。</p> <p>●Kgの意味や単位の変換の問題に課題がある。</p>	<p>・重さや長さ、かさなどにおいて、1目盛りが表す大きさを確認させる。また、1目盛りを拡大して表し理解できるようにしたり、変換表を掲示したりするなど指導を工夫する。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、55.2%で市より3.2%下回った。</p> <p>○棒グラフの読み取りは、概ねできている。</p> <p>●棒グラフの間違いを説明したり、複数の棒グラフを組み合わせたグラフの読み取りに課題がある。</p>	<p>・文章問題を考えるときに、分かっていること、分からないこと、求めることを明確にするために、問題に線を引く、声に出して読む、確認して書き出すなどの指導を繰り返し行う。</p> <p>・説明する問題や応用的な読み取りへの対応として、筋道を立ててよく考えたことを表現する力を付けるために、授業での書く場面を継続的に取り入れ、根気よく取り組ませる。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.3	60.2	59.2
	生命・地球	68.8	71.3	70.3
観点	知識・技能	68.6	73.4	72.3
	思考・判断・表現	56.2	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	52.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、53.3%で市より6.9%下回った。</p> <p>○光の性質やゴムのはたらきについては、概ね理解できている。</p> <p>●実験の予想から結果を推測することや実験の結果を踏まえて実験対象をかえた場合にどうなるかなどの考察や思考力・表現力に課題がある。</p>	<p>・実験・観察をする際には、どのような結果になるのかを予想させてから、実験・観察を行うことをさらに意識していく。また、実験の結果から、考察したり理由を考えたりする力を伸ばすために、実験・観察した結果から、何が分かるのかを個人や友達と考え、比較・検討したり、全体で発表したりするなど、比べて考えたり、自分たちの言葉で説明したりできるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、68.8%で市より2.5%下回った。</p> <p>○身近な自然の観察方法や観察に使う道具、観察の際の注意事項は、よく理解できている。</p> <p>○影のでき方や影の位置の推測など、太陽の動きや影の性質について、概ね理解できている。</p> <p>○日なたと日かげの性質については、県の正答率を約7%上回り、よく理解できているといえる。</p> <p>●昆虫のからだのつくりや植物のつくりについての理解に課題がある。</p>	<p>・実験・観察をする際には、どのような結果になるのかを予想させてから、実験・観察を行うことをさらに意識していく。また、ただ、観察をするのではなく、昆虫や植物のつくりにも着目させて考察や説明を書かせることで、各部位の名称の定着を図る。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家でテストでまちがえた問題について勉強している」の肯定的回答は市の平均を2.6%上回っている。また、この問いに関して、「はい」と回答した児童が市の平均より11.8%上回り、間違えた問題こそ大切だということや次に間違えないように自主学習で必ずやることを、授業中折に触れて話しているの、その習慣が身につけていると思われる。

●「疑問やふしぎに思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答は57.1%であり、市の平均を6.3%下回っている。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答は34.9%で市の平均を15%も下回っている。タブレットを自由に使えるようになったので、辞書だけでなく、不思議だなとか、知りたい、調べたいことなどを授業の中でも、すぐに調べさせるなど抵抗なく使えるようにしていきたい。

●「毎日の生活が充実していると感じている」の肯定的回答は77.7%であり、市の平均を8.7%下回っている。学校での生活も新型コロナウイルス感染症対策などでの制限等もあり、ストレスがかかっているものと思われる。また、やはり、学校生活での分かる、できる、楽しい学習にも大きく影響していると考えられるので、普段の授業の中で、分かる授業や楽しい授業、できるようになったという実感のもてる授業に取り組んでいきたい。

○「授業を集中して受けている」の肯定的回答は93.6%で、市の平均を2.7%上回っている。授業中は、無駄なおしゃべりをする児童は見られず、集中して取り組んでいることが具体的な数字として見られた。引き続き、集中して受けた授業の成果が成績に反映できるようにしていきたい。

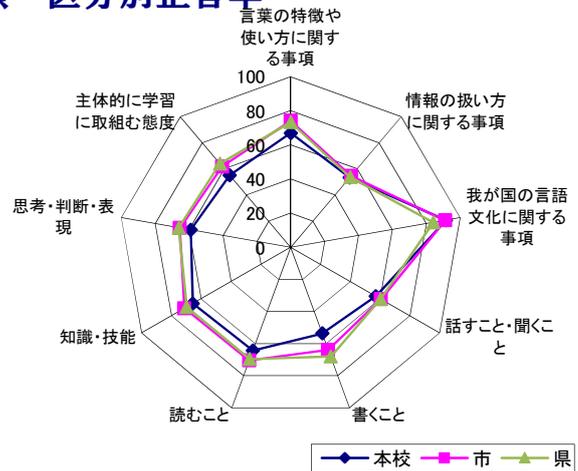
○「時間を上手に使うことを心がけている」の肯定的回答は82.6%であり、市の平均を6.6%上回っている。限られた時間の中で、宿題や家庭学習、部活動や習い事をしている児童が多く見られる。学習への成果も見られるようにしていきたい。○国語が好きの肯定的回答は77.8%で市の平均を10.9%上回り、社会が好きの肯定的回答は71.4%で市の平均を11.7%上回った、引き続き、分かる、できる、楽しい授業を心がけていきたい。

●算数が好きの肯定的回答は68.2%で市の平均を6.2%下回り、理科が好きの肯定的回答は84.1%で2.7%下回った。分かる、できるようになったと感じられる授業の工夫をしていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.0	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	53.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	91.6	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	57.1	60.6	60.4
	書くこと	53.6	63.8	68.0
	読むこと	64.3	70.4	69.6
観点	知識・技能	65.8	71.3	69.9
	思考・判断・表現	59.0	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	55.2	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

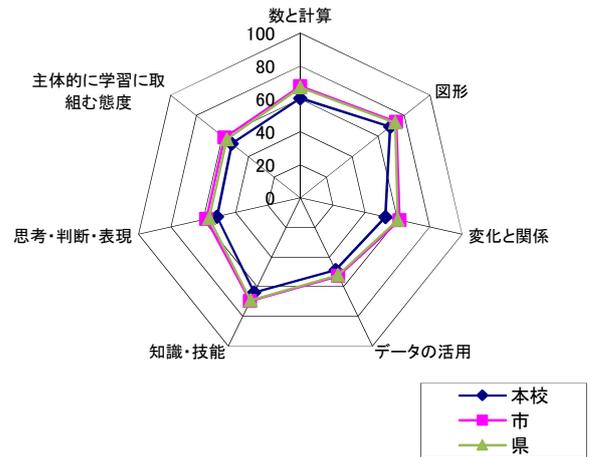
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は67.0%で、市の平均を7.2ポイント下回っている。</p> <p>○既習の漢字を読むことにおいては、概ねできている。</p> <p>●漢字を正しく書くことに課題が見られる。</p>	<p>・全教科を通して、プリントやノートの記述などの際、既習の漢字を使うようにし、漢字の使用を習慣化させる。</p> <p>・漢字練習を宿題などで取り組ませ、くり返し学習し習得できるようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率53.4%で、市の平均を1.3ポイント下回っている。</p> <p>○漢字辞典の使い方について理解している。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係性を捉えることに課題がある。</p>	<p>・説明文を読ませる際に、文と文をつなぐ言葉に着目させながら、文章を読ませて、文と文との関係を理解できるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は91.6%で、市の平均を0.4ポイント上回っている。</p> <p>○代表的なことわざの意味を知り、正しく使うことができている。</p>	<p>・言葉の学習の際には、言葉を実際の使用場面と結びつけながら、実感を伴った理解ができるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率57.1%で、市の平均を3.5ポイント下回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの中心を捉えることは概ねできる。</p> <p>●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・発言や説明をさせる際には、例を挙げて話すこと、意見に理由も添えて話すことなど、話を分かりやすく伝える工夫について指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は53.6%で、市の平均を10.2ポイント下回る。</p> <p>○段落の構成について理解し、段落をつけて書くことは概ねできている。</p> <p>●指定された長さで文章を書くことに課題がある。</p>	<p>・文章を決められた時間でまとめることに慣れていない児童が多いため、授業において、一定の時間で、意見を書いたり、要旨をまとめたりする時間を設ける。書く際に、行数を設定して、文章の長短を調整する書き方に慣れさせる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は64.3%で、市の平均を6.1ポイント下回る。</p> <p>○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えたり、想像したりすることは概ねできている。</p> <p>●文章を読んで感じたことや考えたことを共有することに課題が見られる。</p>	<p>・高学年では読み物資料の分量が多く、文章の要旨や段落の役割を捉えることにつまづきやすいため、小さなまとまりで区切り、要旨を読み取る練習を重ねる。</p> <p>・説明文の読み取りの際には、段落ごとに、役割を捉えさせ、内容の理解を図る。</p> <p>・読み取った内容について、考えを記述させる時間を確保し、話したり、書いたりする表現が苦手な児童への支援を充実させる。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.5	67.8	67.0
	図形	69.3	73.9	73.1
	変化と関係	52.6	61.4	60.2
	データの活用	48.8	52.7	52.1
観点	知識・技能	63.9	69.7	69.2
	思考・判断・表現	51.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	52.8	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

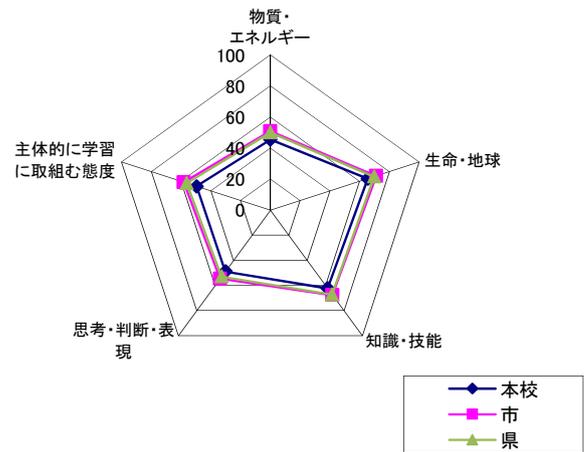
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は60.5%で、市を7.3ポイント下回っている。</p> <p>○「億と兆・がい数の表し方」におけるがい数に対応する数の範囲は概ね理解できている。</p> <p>●「億と兆・がい数の表し方」における数の相対的な大きさについての理解には、課題が見られる。</p> <p>●3けた÷2けたの(余りのある)わり算については、課題が見られる。</p>	<p>・億や兆など大きな数の概念をつかむために、日頃より数の仕組みについて触れ、大きな数の大きさの比べ方や表し方の学習を繰り返し行っていく。</p> <p>・算数スキルタイムでの復習や家庭学習でのプリントなどを利用し、四則計算の学習を繰り返し行い、基礎基本の学力の定着を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は69.3%で、市を4.6ポイント下回っている。</p> <p>○「いろいろな形」の四角形の辺の長さの性質に関しては概ね理解できている。</p> <p>●分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方の理解においては課題が見られる。</p>	<p>・図形においては、半具体物を示し、児童が直接作図したり、操作したりという算数的活動を引き続き取り入れ、より深く理解できるようにする。</p> <p>・分度器の回り方や目盛りの読み方について、丁寧に指導を続け、繰り返し問題を解かせ、習熟を図るとともに、できる喜びを味わえるように、支援していく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は52.6%で、市を8.8ポイント下回っている。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題は、概ねできている。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり、数量の関係を割合を使って説明することにおいては、課題が見られる。</p>	<p>・問題を読み解く力が必要なので、読書の推進や文章問題に多く取り組ませ、読解力を伸ばしていく。</p> <p>・特に、説明を求める問題では、無回答もあることから、自信をもって、学習を進めていくために、自分の考えと比べながら、友達の考えを聞いたり、学び合いを通して、自分の考えを確かなものにできるよう、声掛けをし、励ましていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は48.8%で、市を7.9ポイント下回っている。</p> <p>○折れ線グラフを読み取ることは、概ねできている。</p> <p>●折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題において、課題が見られる。</p>	<p>・グラフから読み取れるデータを自分の言葉で表現できるようにするために、繰り返し問題に取り組ませ、習熟を図る。</p> <p>・特に、説明を求める問題では、無回答もあることから、課題に対して、自分の考えを書いたり、根拠や具体物を示しながら、考えを話したり書いたりする訓練を積んでいく。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	45.4	50.8	50.0
	生命・地球	65.5	71.1	69.8
観点	知識・技能	62.3	67.6	67.2
	思考・判断・表現	48.8	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	49.6	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は45.4%で、市の平均を5.4ポイント下回っている。</p> <p>○物の体積と力では、閉じ込めた空気や水がどうなるかの実験の結果を概ね理解できている。</p> <p>○物のあたたまり方では、空気の温まり方について理解し、日常生活の場面で利用されているものについても、考えることができている児童が多かった。</p> <p>●水のすがたについては、水を冷やした際の温度変化についての問題に課題がある。</p> <p>●自然の中の水については、実験の結果を利用し、水たまりがなくなる理由を書く問題に課題がある。</p>	<p>・実験の結果をしっかりと理解したり、覚えきれたりしていない児童が多かったため、理科の学習の際には、予想をしっかりと立てさせ、結果とどう違うのか、なぜ違ったのかを考える活動を通して思考力を高めるようにする。</p> <p>・「水」についての単元については、日常の場面への疑問をもたせ、なぜなのかと意欲を高め、日々の生活にもつながっていることを意識させられるように、身近な場所の写真や動画などICTも効果的に活用して指導できるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は65.5%で、市の平均を5.6ポイント下回っている。</p> <p>○1年間の植物の成長については、ヘチマの成長に関する問題が概ねよくできている。</p> <p>○動物のからだのつくりと運動については、筋肉や骨の仕組みについて概ね理解している。</p> <p>●月と星については、方位磁針の使い方について課題が残る。</p> <p>●天気のようにと気温については、1日の温度変化を読み取り、晴れか雨が把握する問題に課題がある。</p>	<p>・実験器具の使い方について、それぞれの活用場面にてしっかりと使い方を確認し、どう使うのかだけでなく、間違ったりやり方に対してなぜ間違っているのかを追究することで、理解を深められるようにする。</p> <p>・温度変化の読み取りなど、グラフの読み取りに関しては、理科の学習だけでなく算数も関わってくることを児童に理解させ、教科を超えて指導が行えるよう、教科担当の教員と担任とで協力しながら授業を進めていけるようにする。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的回答は90.4%であり、市の平均より11.1ポイント上回っている。毎授業で分かったことや気付いたことを意識させ、どんな学習を行ったのか振り返ることで、その単元の内容理解をより確実なものにさせていく。

○「ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか」について、1時間未満(全くないを含む)が43.4%と市の平均を9.2ポイント上回っている。これまでに家庭への協力を呼びかけたり、喚起を行ってきたりした成果と考えられる。今後もけじめのある時間の使い方を指導し、心身共に健康な生活態度を呼びかけていくようにする。

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は66.3%であり、市の平均を5.1ポイント上回っている。これは、家庭学習において高学年としての目標時間を定め、授業で習ったことの復習やテストで間違えた問題の勉強に自ら取り組む習慣が身に付いてきている表れと考えられる。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答は50.6%であり、市の平均より10.1ポイント下回っている。道徳や特別活動の時間における、自分自身と向き合い考える学習や他者と関わり合う活動を充実させ、夢や希望をもたせることで自尊感情を高めさせていくようにする。

●「次の教科の授業の内容はよくわかりますか」の算数の肯定的回答は81.9%であり、市の平均を4.8ポイント下回っている。また、社会についても肯定的回答は77.1%であり市の平均を4.4ポイント下回っている。教師が児童の実態をよく把握し、個に応じた指導や全体での学び合いを充実させることで、確かな「わかった感」がもてるように工夫をしていく。

●「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的回答は44.6%であり、市の平均を10.8ポイント下回っている。また、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答は53%であり、市の平均を12.3ポイント下回っている。授業で扱った基礎・基本を確実なものとするため、その日に学習したことの復習を中心に自主学習に取り組ませ、家庭学習の定着を図っていくようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学ぶ楽しさを実感できるようにする取組	・学びに向かう学級集団づくり ・個人に合った家庭学習への取組	「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」の質問に肯定的に回答した児童の割合は5年生が78.3%、4年生が82.5%であった。 「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問に肯定的回答をした児童の割合は5年生が96.4%、4年生が98.4%であった。
学びの実感をもつことができるようにする取組 自己の成長を実感できるようにする取組	・学習の振り返りができるノートづくり ・考えたことを書いたり表現したりする力の育成 ・まとめと振り返りの時間の確保をし、児童の学びを確かなものにする	「授業で扱うノートには、めあてとまとめを書いている」の質問に肯定的回答をした児童の割合は5年生が92.8%、4年生が47.3%であった。 「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に肯定的回答をした児童の割合は5年生が90.4%、4年生が60.3%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、市や県の平均よりも全体的に低い傾向が見られた。また、「書くこと」に対する問題では無回答の児童も少なくなかった。	・基礎基本を定着させるための取組 ・書く力を高めるための取組	朝の学習の時間を利用したり、各単元の内容を復習する時間を設け、基礎基本の定着を図る。学んだことを既習の学習事項と結びつけるなど、知識や技能を応用させ考える場を設けるようにする。 また、書き方の形式を示しながら書かせたり、自分の考えを書き表す機会を、様々な教科や場面を利用しながらつくり出すようにする。